



## CONTENTS

### 指定植物図鑑

ハマジン  
チョウ  
伊勢志摩  
国立公園



ハマジンチョウ科の常緑低木で、日本では三重県南部が分布の北限になっています。2月～3月頃、淡い赤紫色の小さな花を咲かせ、丸い種子をつけます。その種子はコルク質で軽く、海流に乗って散布されます。

1 2

特集1：国連生物多様性の10年記念行事in  
あいち・なごや ～ COP10一周年記念～

3

特集2：12月は地球温暖化防止月間です。

4

ローカルチャレンジinちゅうぶ…石川県輪島市  
食品リサイクルシンボルマーク「めぐりふード」使用申請の受付開始

5

パートナーシップがつくる地域の未来…  
藤前干潟クリーン大作戦実行委員会・矢作湿地を守り育てる活動

6

アクティブレンジャーレポート／ FOCUS





いのちの共生を、未来へ



United Nations Decade on Biodiversity

# 国連生物多様性の10年 記念行事



## in あいち・なごや

2011年から2020年の10年間は国連の定めた「国連生物多様性の10年」であり、昨年開催されたCOP10で採択された愛知目標の達成に貢献するため、国連全体で生物多様性の保全などに向けた取り組みを促すとしています。

このことを踏まえCOP10一周年を機に様々な催しが開催されました。

### 生物多様性自治体ネットワーク設立総会

10月7日



生物多様性の保全や回復を進めるには、地域に根付いた現場の活動を自ら実施し、住民や関係団体の活動を支援する地方自治体の役割は極めて重要です。

このため「生物多様性自治体ネットワーク」の設立に賛同いただいた自治体により名古屋市愛知芸術文化センターにおいて設立総会が開催されました。多くの首長、自治体の長を始め73団体85名が出席し、初代代表に愛知県知事が選任されました。

今後は情報の共有や発信などネットワークとしての活動を強化することとします。

### いきもの交流フェスタ

10月8日

記念行事の一環として愛知県の主催により「いきもの交流フェスタ」が名古屋市オアシス21において開催されました。

オープニングセレモニーでは大村愛知県知事、河村名古屋市長、神田中部地方環境事務所長のあいさつの後、愛知県知事、名古屋市長によるトークショーが行われました。

また、ワークショップも様々開かれ多くの方においでいただくとともに楽しいひとときを過ごしていただくことができました。



10月29日

## 生物多様性全国ミーティング

生物多様性全国ミーティングは9月1日に設立された国連生物多様性の10年日本委員会に参画している様々なセクターが一同に集い、各セクターが行う生物多様性の保全と持続可能な利用のための取り組みについて意見交換するとともにセクター間での連携を深めることを目的に開催されました。

中部地方環境事務所から統括自然保護企画官がパネリストとして参加し環境省の取組について説明したパネルディスカッションでは、地球生きもの応援団のイルカさんをコメンテーターに迎え、多岐に渡る内容が討議されました。



10月30日

## 名古屋市主催「震災と生物多様性シンポジウム」

記念行事の一環として、名古屋市の主催により「震災と生物多様性シンポジウム」がナディアパークにおいて開催されました。

環境省 小林審議官より前日の全国ミーティング報告、東京都市大学 涌井教授による基調講演の後、名古屋市立大学 香坂准教授をコーディネーター、涌井教授をスーパーバイザーにパネルディスカッションが行われ、短い時間をフルに使い活発な討議がなされました。



これら一連のイベントを通して国連生物多様性の10年への取り組み、また、COP10 愛知目標の達成に向け中部地方環境事務所も更なる活動強化を図ることといたします。



# 12月は 地球温暖化 防止月間です。

平成9年12月に京都で開催された気候変動枠組条約第3回締約国会議(COP3)を契機として、環境省では12月を「地球温暖化防止月間」としています。

この間、行政や事業者、各種団体において様々な取り組みが行われます。皆様の生活におきましても、どのような行動が地球温暖化防止につながるのかについて考えてみましょう。



## WARM BIZ ~1人ひとりが、やさしい冬をつくります~

チャレンジ25キャンペーン(環境省)では、2005年度から冬の地球温暖化対策の一つとして、暖房時の室温20℃設定で心地良く過ごすことのできるライフスタイル「WARM BIZ」(ウォームビズ)を推進しています。

今年度も11月1日から3月31日までをウォームビズ期間とし、東日本大震災を受けた節電の必要性はもちろんのことですが、エネルギー全般の使い方を見直し、各主体が低炭素社会の構築に向けたビジネススタイル・ライフスタイルに変革することを目指し、オフィスや家庭で出来る「WARM BIZ」の普及啓発を行います。

詳しい内容は以下のホームページをご覧ください。

<http://www.challenge25.go.jp/practice/warmbiz/warmbiz2011/index.html>

※このページに記載されているポスターやロゴマークなどの啓発ツールは、ホームページから「WARM BIZ賛同団体」へご登録いただくことにより、ご利用いただけます。



### 衣食住の、あった丸の心得!!

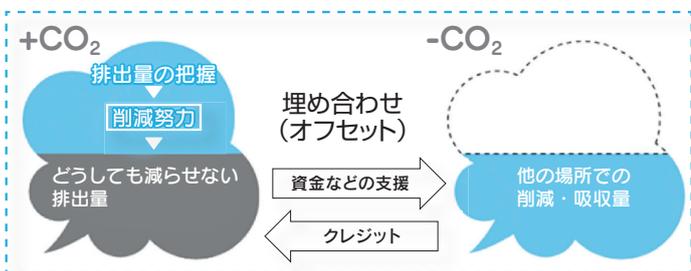
- 衣 靴の手袋、足指の三つの指をあたためるべし。
- 寝 機能性素材の下部や履き口など、体幹をあたためる工夫をすべし。
- マ フ ラ ー や ス ト ー ル で、「オシャレ」にあたる工夫をすべし。
- 食 べ 物 の 工 夫 を 心 掛 け る べ し
- みんなで鍋をつついて楽しむべし、からだも室内もあたためるべし。
- 暖茶やしょうが湯を、からだの内側からあたためる素材を選ぶべし。
- 一日の始まりは朝食をしっかりとって、寒さには強くなるべし。
- 住 まい の 工 夫 を 心 掛 け る べ し
- 窓やドア付近に注目し、あたためられた空気を逃がさない工夫をすべし。
- 暖房に頼りすぎず道具や小物で、室内の温度を20℃以下に保つ工夫をすべし。
- 除湿温度をあげ、暖房効率を良くするために、湿度を調整をすべし。

<https://www.challenge25.go.jp/practice/warmbiz/warmbiz2011/>

## 中部カーボン・オフセット推進ネットワークのご案内

21世紀の企業にとっての重要課題の一つは、温室効果ガスの排出削減とエネルギーコスト削減への対応です。これ以上の温暖化・気候変動が人類社会全体へのリスクである以上対応は不可避です。温室効果ガスの排出削減はすなわちエネルギーコストの削減であり、生産コストの削減にもなります。

カーボン・オフセットとは、このような温室効果ガス排出とエネルギーコストの削減に加えて商品やサービス、企業活動そのものに確実な環境価値を付加する公的な仕組みです。カーボン・オフセットに用いられるJ-VÉRクレジットとは森林保全活動などを中心とする温室効果ガスの排出削減・吸収活動から生み出されるものであり、環境教育の場の提供、多様な動植物の住みかの創出、再生可能エネルギー設備の増加といったさまざまな付加価値を地域にもたらすもので、中部(愛知、岐阜、三重、富山、石川、福井、長野)管内でもこのクレジットを創出する多くのプロジェクトが進んでいます。



中部カーボン・推進ネットワークは、地域社会の低炭素化を促進し、このカーボン・オフセットの仕組みを、地域の皆様により分かりやすく理解していただくことを目的として、中部地区で初めて環境省委託事業として設立されました。

カーボン・オフセットについて知見を深めたい地域の民間企業・自治体等の皆様が緩やかなネットワークを形成し、サービスとして①HPやメルマガでの最新情報の提供、②さまざまな研修機会の提供、③ヘルプデスク機能の提供を行い、カーボン・オフセットの取組みをスムーズに展開していきたいと考えています。是非、中部カーボン・オフセット推進ネットワークにご参加ください。

事務局：特定非営利活動法人ボランタリーネイバース  
株式会社ウエストボックス  
協力：環境省中部地方環境事務所  
環境省中部環境パートナーシップオフィス

(EPO中部)

詳しくは、<http://c-conet.org/index.html>

## 輪島市(石川県) 530運動で美しい町づくりを

輪島市では、春と秋の年2回、市内の企業・各種団体が主体となった、「輪島市美しい町づくり推進協議会」提唱の下、530(ゴミゼロ)運動を実施しております。

春と秋の各一週間を全市美化清掃週間と銘打ち、個人や団体を問わず屋内外の清掃や側溝・用水のどろあげ、ごみ拾いや雑草等の草刈りをし、清掃週間内の一日を一斉清掃奉仕日として、企業・各種団体が公共の場所などを清掃します。

昭和52年から実施してきた530運動は、本年度で35年目となり、現在約40団体・600名が取り組んでおります。

この取組を通じて、美しい町づくりを形成していくとともに、企業、各種団体、行政などが協力して、住民の皆さんに環境美化への関心を持っていただけるよう今後もより一層啓発していきます。

輪島市福祉環境部環境対策課  
電話：0768-23-1853(いやゴミ)



9月29日  
秋のゴミゼロ袖ヶ浜



めぐりふーど

## 「めぐりふーど」

### シンボルマークの使用開始

食品リサイクルの取組をより広めるためには、この取組から生まれた商品をより多くの方々に利用していただくことが必要です。このため当事務所では、この取組を皆様に身近に感じていただき、認知度やイメージの向上が図れるように、食品リサイクルの取組を表す愛称として「めぐりふーど」とそのシンボルマークを定めました。

このたび、この愛称とシンボルマークをご利用いただくために、利用の手引きを作成し使用申請の受付を開始しました。この愛称とシンボルマークの利用は、「食品リサイクルに取り組んでいる」、「協力している」など、食品リサイクルの取組に貢献している当事務所管内の事業者や団体等の方々であれば、基本的にどなたでもご使用いただけます。

詳しい申請方法やご利用の条件は、当事務所の廃棄物・リサイクル対策課にお問い合わせいただくか、当事務所のHP([http://chubu.env.go.jp/recycle/r\\_6.html](http://chubu.env.go.jp/recycle/r_6.html))をご覧ください。



藤前干潟クリーン大作戦実行委員会



「藤前干潟の漂着ゴミを減らす市民の活動」



中堤会場の参加者と応援にきたモリゾーとキッコロ(2011年春)

藤前干潟クリーン大作戦(以下、クリーン大作戦)は、毎年春と秋の2回、藤前干潟に漂着するごみを市民の皆さんによって清掃する活動です。2004年から実施し、2011年秋で15回目を迎え、近年は1,500人以上の方々に参加していただける大規模で継続的な活動となりました。

藤前干潟は伊勢湾最奥部に位置し、庄内川、新川、日光川の3河川が合流する河口にあります。渡り鳥などの野生動物の宝庫であることから、国指定鳥獣保護区であると同時に、ラムサール条約(※1)に登録された国際的にも重要な湿地です。また、干潟の生き物や野鳥の観察などができ、私たち人間が自然と触れ合える貴重な癒しの場所ともいえます。

しかし、藤前干潟には川の上流から運ばれてくるごみが大量に漂着します。不法投棄も絶えません。ごみは景観を損なうだけでなく、生き物の生息環境を悪化させてしまいます。

この状況に危機感を抱いた4つの市民団体(現在は7団体が参加)が、「子供たちが安心して触れ合える岸辺・水辺を取り戻すこと」、「ラムサール条約登録湿地にふさわしい干潟にすること」を目標に掲げ、2004年に実行委員会を立ち上げ、地域の皆様、企業、行政機関と一緒にクリーン大作戦を実施することとなりました。

クリーン大作戦実施以降、干潟のごみは減っており活動の成果が現れています。

また、実行委員会では子供たちにごみの問題を伝えることが大切であると考え、ごみ拾い後に多治見市から応援に来てくれる中学生を中心に、水質調査や干潟での生き物観察会を開き、命の繋がりを楽しく感じてもらえる機会を設けています。この干潟との触れ合いが、自然環境に対する関心に繋がることを願っています。

漂着ゴミの問題は藤前干潟だけの問題ではなく、流域全体の問題です。今後も地元と行政機関との共同体制を大切にすると同時に、川の上・下流域、さらには伊勢湾全体との連携を図り、ごみを減らす活動の輪を広げていきたいと考えています。いつか、藤前干潟に拾うべきごみが無くなることを目指して。

(※1: 正式名称「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約」)



藤前会場でのごみ清掃の様子 (2010年春)

矢並湿地保存会



～矢並湿地を守り育てる活動～

愛知県豊田市矢並町内に所在する矢並湿地は、ミカワシオガマをはじめ「東海丘陵要素植物」と呼ばれる東海地方でしか見られない貴重な湿地植物などが数多く自生している湿地です。

平成10年に豊田市で愛知県内の市町村による湿地サミットが開催され、矢並湿地の一般公開が行われたことをきっかけに、矢並町の住民による「矢並湿地保存会」が発足しました。



矢並湿地一般公開風景



保全作業風景

里地里山と同じく、矢並湿地も人が関わりあうことで湿地の植生が維持されてきました。保存会も貴重植物の群落維持のために、イノシシの侵入を防ぐ環境整備や湿地の富栄養化を防ぐ草刈りなどを定期的に行っています。また観察会や周辺湿地の視察を行い、湿地の特性と湿地植物について楽しみながら学んでいます。

毎年、秋の草花が見頃を迎える時期に、地元の豊田市自然愛護協会とともに湿地を公開しており、1,000名を超える見学者を案内しています。

今後は、地元小学校との連携を深め、若い世代に自然保護の大切さを伝えていきます。



# 都会のすぐそばにある野生生物の宝庫「藤前干潟」

名古屋自然保護官事務所アクティブレンジャー 野村 朋子

藤前干潟は工業地帯の中にあり、埋立て計画を市民の力で回避した生物多様性の豊かな場所です。潮が最も引く時には約238haもの干潟が現れ、年間約70種を超える渡り鳥がやってきます。また、干潟が出ると必ず現れる7種類のカニやトビハゼといった魚などの多くの生き物と触れ合い、命の営みを肌で感じることができます。名古屋駅から電車を使って約30分の位置にある自然「藤前干潟」の魅力を今回は大きく2つ紹介したいと思います。

1

1つ目は、鳥が驚くほど良く見えることです。干潟には森や林などと違って視界を遮るものがないため、鳥の行動や形態をつぶさに観察できます。

干潟を代表する渡り鳥であるシギ・チドリが干潟の穴にくちばしを出し入れし、ゴカイやカニなどを取っている姿はいつまでも見飽きません。バードウォッチング初心者や生き物の写真を撮り始めた方にもきっと楽しんでもらえるはずですよ。



冬に藤前干潟に渡ってくるスズガモ

2

2つ目の魅力として、藤前干潟には守られた歴史があり、それが引き継がれていることです。藤前干潟には、1980年代以降、埋立て計画がありました。市民活動によって埋立てから守られ、2002年に国指定鳥獣保護区となると同時に、ラムサール条約(※1)に登録され、現在は保全と健全な利用が図られています。環境省の教育学習施設として、稲永ビジターセンターと藤前活動センターができ、野鳥観察や干潟の生き物観察など、自然と触れ合うプログラムが数多く行われています。参加者の皆さんからは、大都会の名古屋で多種多様な生き物に会えることに驚き、喜ぶ声が毎回多く聞かれます。



5月の干潟の生き物観察会  
(後ろにあるのは都市を結ぶ動脈である名港西大橋)

冬の間は昼間に干潟がほとんど出ませんが、冬鳥たちでにぎやかです。遠く、北の国から多くのカモたちがやってきています。是非、彼らに会いに来てください。

(※1：正式名称は「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約」)

## FOCUS

開催しました!

### 3R推進中部地方大会



中部地方環境事務所では、10月の3R推進月間に関連する普及・啓発活動の一環として、2つのイベントを開催しました。多くの方に参加いただきありがとうございました。

#### 第1弾!

9月18日(日)に、名古屋市の久屋大通公園において、「環境デーなごや2011中央行事」と連携して、食品リサイクルの現状・取組についての紹介、食品リサイクルの取組を応援する新たな愛称「めぐりふード」のお披露目など、市民の方向けの展示、説明を行いました。また、タレントの原田さとみさんの進行により、3Rを考えるステージイベントによるPRも行いました。



#### 第2弾!



11月15日(火)に、名古屋銀行協会大ホールにおいて「食品リサイクルのこれからを考えるシンポジウム」を開催しました。このシンポジウムでは、百瀬 則子(ユニー株式会社環境社会貢献部部長)による基調講演及び小売店、外食産業、農業者団体、堆肥化事業者及び関係行政機関を代表する方々によるパネルディスカッションを行い、食品リサイクルの課題や地域循環圏を構築する方向性等について様々なご意見、ご示唆をいただきました。

# 中部地方環境事務所からのお知らせ

## 12月は「大気汚染防止推進月間」です

12月は、自動車交通量の増加、ビルや家庭の暖房のほか、気象条件の影響などにより、大気汚染物質濃度が高くなる傾向があります。

環境省では、毎年12月を大気汚染防止推進月間として、きれいな空を守るための大切さを呼びかけています。

大気環境を守るための、環境省からの提案です。

- ・エコドライブを実践してみましょう
- ・自転車や電車の使用を心がけましょう
- ・過度の暖房の使用を控えましょう
- ・大気汚染の防止について、みんなで考えてみましょう

また、環境省では、大気汚染物質広域監視システム(愛称:そらまめ君)により、全国の大気汚染状況について、24時間、情報提供しています。

(そらまめ君ホームページ)

<http://soramame.taiki.go.jp/>



### お知らせ

## 「国連持続可能な開発のための教育の10年」 最終年会合開催地が 愛知県・名古屋市及び岡山市に決定しました

第5回「国連持続可能な開発のための教育の10年」関係省庁連絡会議において、2014年に我が国で開催される「国連持続可能な開発のための教育の10年」最終年会合の開催地が決定しました。

開催に当たり全国から7自治体から開催誘致の希望が表明されていましたが、以下の内容で決定されました。

- (1) 閣僚級会合及び全体の取りまとめ会合は、愛知県・名古屋市中で開催すること。
- (2) ESD最終年会合の一環として位置づけられる各種ステークホルダー、(国連機関、研究者、学校関係者、民間企業、NPO等)の主たる会合については、岡山市で開催することとし、今後、同市、ユネスコ及び関係団体との間で調整を行うこと。
- (3) なお、他の5自治体については、各自治体におけるサイドイベント等の実施を通じて、日本全体で最終年会合を盛り上げていけるよう、連携・協力を図っていくこと。

今後、最終年会合開催に向けて行われる様々なアクションへ参加を呼びかけています。

### INCLUDEPICTURE

"http://t1.gstatic.com/images?q=tbn:ANd9GcQxhCnt12XFmHKu4fP0j4q2iyZQrV7pKIUxDemoUmSmY1BKhzFndg" \\* MERGEFORMATINET

## EVENT CALENDAR

平成23年12月～平成24年2月

❖ 中部地方環境事務所 ☎052-955-2130  
<http://chubu.env.go.jp/>

❖ 三重県環境フェア2011 出展  
12月11日(日) 10:00～15:00(メッセウイング・みえ)  
入場料: 無料

❖ 見よう! 減らそう! CO<sub>2</sub>  
～家庭生活からの二酸化炭素削減を目指して～(仮)  
24年1月28日(土) 13時30分～16時(名古屋栄ビルディング)  
定員100名(入場料: 無料)

❖ 名古屋自然保護官事務所 ☎052-389-2877  
<http://chubu.env.go.jp/wildlife/fujimae/index.html>

❖ 初干潟&冬鳥ウォッチング 1月14日(土)

❖ 横山ビジターセンター ☎0599-44-0567  
<http://www.yokoyama-vc.jp/>

- ❖ ふたご座流星群と冬の星空観察会 12月14日(水)
- ❖ しめ縄づくり 12月17日(土)
- ❖ 竹で作ろう 1月14日(土)
- ❖ オシロリの観察会 1月21日(土)
- ❖ 礫浦歴史ウォーク 2月11日(土)
- ❖ 冬鳥の観察会 2月25日(土)

❖ 長野自然環境事務所 ☎026-231-6570  
<http://chubu.env.go.jp/nagano/>

- ❖ 中部山岳・上信越高原アクティブ・レンジャー国立公園写真展  
～12月15日(木)  
新井総合コミュニティセンター 1Fロビー廊下(新潟県妙高市)  
12月20日(火)～1月31日(火)<定休日なし>  
休暇村乗鞍高原(長野県松本市)  
2月7日(火)～2月16日(木)<平日(開庁日)のみ>  
長野県庁 エントランスホール(長野県長野市)



### 表紙の写真

#### 「光り輝く英虞湾」

撮影: 横山ビジターセンター 石橋 亮

空気が冷たく澄み渡る冬は、常緑の木々や青い海をよりいっそう鮮明に見せてくれます。リアス式海岸の英虞湾が一年で最も美しく見えると言われ、午前中に横山展望台を訪れると、光り輝く英虞湾を見ることができます。



中部地方において様々な「環境」の活動に取り組んでいる方々が、この広報誌を通して「環」(わ)のようにつながって、その「環」が広がってほしいという願いを込めて命名しました。

発行: 環境省

中部地方環境事務所

〒460-0001

愛知県名古屋市中区三の丸2-5-2

TEL 052-955-2130 FAX 052-951-8889

URL <http://chubu.env.go.jp/>

長野自然環境事務所

〒380-0846

長野県長野市旭町1108 長野第一合同庁舎3階

TEL 026-231-6570 FAX 026-235-1226

URL <http://chubu.env.go.jp/nagano/>

平成23年12月発行

リサイクル適性の表示: 紙へリサイクル可  
この印刷物は、グリーン購入法に基づく基本方針における「印刷」に係る判断の基準にしたがい、印刷用の紙へのリサイクルに適した材料[Aランク]のみを用いて作製しています。



中部地方環境事務所は、(財)日本環境協会の承認を得て、エコマークをシンボルマークとして使用しています。



古紙バブル配合率100%再生紙を使用



この印刷品は、環境に配慮した素材と工場で製造されています。